

びそれに付着する肋軟骨、肋骨の一部が脊柱に向かつて漏斗状に陥凹・接近している状態である。中央 ICU では、昭和53年6月1日より昭和55年5月31日までに17例の漏斗胸患者の術後管理を経験した。手術方法は胸骨翻転術のみが2例、マイクロ血管縫合を加えたものが15例である。患者の年齢は、7歳から30歳。性別では男性15名、女性2名。麻酔法は NLA 13例、NLA 変法2例、GOF 2例で、16例が挿管のまま ICU へ入室した。レスピレーター装着時間は、7時間30分から48時間で、ICU 入室時からの挿管時間は16時間15分から89時間30分である。在 ICU 期間は2日から6日である。術前には、全身状態など良好であったが、胸部正面像で、心陰影の左方偏位、脊柱側弯症を伴ったものがみられ、心電図上でも、脚ブロック、ST の上昇をみるものが存在した。術後の合併症は、血気胸、胸腔内液貯留等で、重篤なものは少なく、排液操作などの簡単な術後処置で治療せしめた。本手術は、第1に疼痛による呼吸不全の可能性が大であること。第2に、手術操作、部位による肺合併症の予防。第3に、胸骨翻転するなど外科的侵襲が大であること。第4に長時間麻酔による麻酔科的侵襲が大であること。等から、術後は人工呼吸器による補助呼吸が必要である。われわれは17名の漏斗胸患者について呼吸、循環管理を主として考察した。

### 15. 胸鎖鎖骨部の Osteoarthropathy

(整形外科)

○渡辺 耕志・並木 脩・豊島 弘道・  
中江 令子・白須 敏夫

(皮膚科)

肥田野 信

胸骨部周囲に疼痛あるいは腫脹をきたす疾患には骨髄炎、慢性関節リウマチ、変形性関節症、肋軟骨炎(Tietze's syndrome)、骨腫瘍および外傷などがある。しかしいずれの疾患もそれほどポピュラーなものではないので軽視されてきた感がある。

ところが1974年、園崎らが胸骨部周囲の疼痛、腫脹を主訴とし、X線的には鎖骨内側、胸骨および第1肋骨に異常骨化を示す4症例を発表し、そして翌年 Köhler が類似の病態を示す3症例に Sterno-kosto-klavikuläre Hyperostose と命名し、新しいひとつの clinical entity として発表して以来、わが国では胸骨部周囲の病変に注目が集まるようになってきた。

われわれは外傷の既往なしで疼痛、腫脹を主訴とし、X線的には異常が認められないにもかかわらず、骨シンチで異常集積を示す症例を経験している。

そこでわれわれは、昭和50年1月より現在まで、胸骨部周囲に疼痛あるいは腫脹を主訴として来院した38例のうち、外傷および腫瘍に原因を有する9例を除いた29例につき臨床的に比較検討したので報告する。

### 16. 高度内変形を呈した RA 膝関節に対する人工関節置換術の経験

(整形外科)

○豊島 弘道・並木 脩・林 美代子・  
市原 健一・小口 茂樹

慢性関節リウマチ (RA) は、全身の結合組織疾患であるが、その主病変は全身の関節に現われる。治療に際しては、内服薬など保存的療法を主として行なうとしても、RA が進行し、荒廃した関節の機能を回復するには外科的療法が必要となる。特に膝関節は荷重関節で、日常生活上問題の生じやすい関節の1つであり、近年人工関節置換術が外科的療法の重要な地位を占めつつある。

最近われわれは、高度の内反変形を呈した RA の膝関節に対し、脛骨骨欠損部に骨移植を行ない、人工関節置換術を行なった2症例を経験し、比較的良い成績を得ているので報告する。

症例1、55歳、女性、(classical RA) 7年前発症、各種保存的療法で RA の活動性は抑えられているものの、両膝関節の骨破壊と著明な痛みがあった。特に右膝関節は高度の内反変形を呈していた。

症例2、46歳、女性、(classical RA) 15年前発症し、各種保存的療法、および両膝関節の滑膜切除術の既往がある。左膝に比し右膝は骨破壊が著しく、高度の内反変形を呈していた。

これらの症例に対し、軟部組織の release を行ない、骨移植により脛骨内側骨欠損部を補充したうえで人工関節置換術を行なった。

近年人工膝関節は hingeless type が多く使われるようになってきている。しかし hingeless type では高度内反変形に対する処置には種々の問題がある。演者らはこのような症例に上述のごとき手術を行なった。術後短期間ではあるが、除痛性、可動性、支持性とも一応満足な結果を得ている。

### 17. 指先容積脈波を利用した自律神経機能検査法。(Shy-Drager 症候群について)

(神経内科)

○三浦 明子・山口 晴子・清水 幹子・  
小林 逸郎・竹宮 敏子・丸山 勝一

1960年 Shy-Drager により詳細に報告された特発性起